

男の子として成長しながら、物心ついたころから自分の体に違和感があった。小学一年生で思い描いた将来の夢は「お嫁さん」。親にせがんで買ってもらったおもちゃは、リカちゃん人形だった。話しぶりなどが女性っぽかったためか、高校では登校すると毎朝、あいさつ代わりに男子から頭をたたくされた。こみ箱に体操服が捨てられたこともある。

「何をしても楽しくなかった」。岡山県南に住む瀧口あきさん(26)は、伏し目がちに思春期を振り返る。

岡山大病院ジェンダークリニック(岡山市)に通院し始めたのは二十歳のころ。診断名は心と体の性別が一致しない「性同一性障害」(GID)。

## 見つめて心の性

性同一性障害のいま

だった。

■ □

大人になり髪を伸ばし、女性服を着て化粧する瀧口さんに対し、両親は「そんな格好やめなさい」。何度、障害を説明しても理解してもらえなかった。

「女性として振る舞う」とは私にとって本当の性で生きることであり、人格の一部。だけど女装趣味にしか思われていない。

兄弟のように一緒に育つたいとこの結婚式には親族の目を気にしてか、出席させてくれなかった。「家族に存在を否定される」とほど悲しいことはない。

# 理解は進んでいっているのか

### ① 厚い壁



女の子に人気のリカちゃん人形。男としての体の性に違和感を持つ瀧口さんにとって、大切なおもちゃだった

自分なんていない方がいい」と、自殺しようかと悩んだという。

性同一性障害が日本から十数年前、埼玉医科大学(埼玉県)が一九九

八年、体の性別を変えたいという欲求を、正統上の性別を変えられたいという欲求と、その際、女性ホルモンの投与で子どもがいる場合は薬を服用する必要がある。二〇〇一年には岡山大学が同手術を始め、医療体制は前進した。

日本精神神経学会・性同一性障害に関する委員会(委員長は中島豊爾・岡山県精神科医療センター理事長)が、いえるが、壁はまだま

ジェンダークリニックを対象に行った調査で、昨年未までの同障害による受診者は延べ七千七百七十七人。潜在的にはもっと多いとみられる。

法律面でも〇四年のGID特例法施行で男に受け入れてもらえる

から女、女から男へ戸籍上の性別を変えられたいという欲求と、その際、女性ホルモンの投与で子どもがいる場合は薬を服用する必要がある。二〇〇一年には岡山大学が同手術を始め、医療体制は前進した。

性同一性障害に関する委員会(委員長は中島豊爾・岡山県精神科医療センター理事長)が、いえるが、壁はまだま

ジェンダークリニックを対象に行った調査で、昨年未までの同障害による受診者は延べ七千七百七十七人。潜在的にはもっと多いとみられる。

法律面でも〇四年のGID特例法施行で男に受け入れてもらえる

から女、女から男へ戸籍上の性別を変えられたいという欲求と、その際、女性ホルモンの投与で子どもがいる場合は薬を服用する必要がある。二〇〇一年には岡山大学が同手術を始め、医療体制は前進した。

性同一性障害に関する委員会(委員長は中島豊爾・岡山県精神科医療センター理事長)が、いえるが、壁はまだま

ジェンダークリニックを対象に行った調査で、昨年未までの同障害による受診者は延べ七千七百七十七人。潜在的にはもっと多いとみられる。

法律面でも〇四年のGID特例法施行で男に受け入れてもらえる